

第1回北杜市立小中学校適正規模等審議会 会議録

1. 会議名：第1回北杜市立小中学校適正規模等審議会
2. 日時：令和元年8月2日午後3時～5時10分
3. 場所：北杜市役所西会議室
4. 出席者：
(委員) 清水 一彦・日永 龍彦・藤原 哲治・堤 初夫・三井 成司・
興石 幸徳・小野 光一・齊木 和茂・白倉 俊樹・南 陽子・
高橋 達郎・浅川 栄司・細川 英雄・川村 めぐみ・瀧澤 真・
高木 ひとみ・三井 紀子
(事務局) 堀内教育長・中山教育部長・堀内教育総務課長・
田丸総務担当リーダー・小林施設担当リーダー・
学校教育担当白倉・総務担当浅川・柳澤
5. 委嘱状交付：教育長より委嘱状交付
6. 教育長あいさつ
7. 委員紹介
8. 役員選出：会長 清水一彦委員、副会長 川村めぐみ委員
9. 会長あいさつ
10. 諮問：教育長より会長へ諮問書を渡す
11. 議事
(1) 経過報告
(2) 審議スケジュール等について
12. 公開・非公開の別：公開
13. 傍聴人の数：1人
14. 議事録署名委員：日永龍彦委員、藤原哲治委員

議 題

(1) 経過報告

(事務局) 資料に沿って説明。

(委員) 中学校の生徒数とクラス数の表があるが、小学校卒業後、私立中学校への進学もあり、想定数字より少ないクラス数になる可能性を秘めていることを知ってもらいたい。

(委員) 甲陵の中高一貫教育の存在理由がよく分からないので教えてほしい。

(事務局) 甲陵中学・甲陵高校は、組合立で長年地域の教育の中心として開

校している。学校教育等の環境の変化などで、よりよい高校の学校の在り方を考える中で、中学校も併設しながら6年間一貫した教育を目指すのが目的。SSH（スーパーサイエンスハイスクール）も2期目に入り、6年間教育を一貫で継続することで成果が上がっていることが一つの存在理由として考えられる。あと一つは、地域の中で先進的な教育をする学校があることで、市立小中学校のレベルアップが図られると考えている。

(会 長) 国で中等教育学校という新しい6年制の学校が学校教育法第1条に登場し、関連して中学校と高校が連携し中高一貫校が登場した。そういう意味では北杜市における特色ある新しい学校として位置づけられ、そこに大きな存在意義があると思う。SSHを通して、ますます教育の質を高めるうえで役立っているのが現状ではないかと思う。

(委 員) 原っぱ教育と呼ぶ由縁やその特色は、どこに一番表れているか。

(事務局) 北杜市は、広大な自然環境や地元の優秀な人材を生かしながら、郷土愛あふれる人材の育成を目指している中で、原っぱ教育を推進している。また、家庭、学校、地域が連携した教育を推進し、個性や才能を伸ばす教育指導の充実に取り組んでいる。

(委 員) なぜ、「原っぱ」という言葉を使うのか。

(事務局) 北杜市は、自然環境面、山岳景観、日照時間が長く、それぞれの地域の特色があり、それを生かしながら、勉強だけでなく、心も強くしていこうということ。地域のさまざまな人たちの協力を得ながらやっっていこうという観点から「原っぱ教育」を明言して推進している。

(委 員) 原っぱ教育というと、戦前の大正自由教育の中に同じ用語がある。その戦前の大正自由教育の原っぱ教育の名称がなぜ突然出てくるのか、教育史的に面白い。その関係について教えてほしい。

(会 長) それの研究実践校を指定して、実践、活動しているのか。

(事務局) 毎年2校指定して活動している。

(委 員) 今の子どもたちの現状の課題をどのように捉えているか。

(事務局) 現状を分析し、各地区で説明会を行う予定。

(会 長) 地域の課題を知った上で適正配置を考えることが重要だと思う。

新知事の公約である25人学級の総合計画が、どのように進んでいくかにより、適正配置に影響が出てくると思う。子ども、親、地域を考え、単に小学校、中学校を統合するのではなく、義務教育一貫の縦の繋がりで考える必要がある。数字ありきの単なる統合では、

これからを担う子どもたちに十分ではないと思う。

(委員) 統合した学校で、統合による財政的な効果はあるか。市の財政負担は増えるのでは。

(委員) 1950年代から、へき地小規模校のデメリットは解消され、大きい規模の学校ではできない教育をしている。教育政策研究所でも統合のメリット、デメリットを分析しているが、メリットは、友だちが増えた。デメリットは、結構シビアで、それをいかに解消するかで苦労している。本市でも既に小学校が統合して数年経っているので子どもたちだけでなく、学校がなくなった地域では地域のコミュニティーもなくなっていくこともあるので、学校教育だけでなく町づくりの面からも考えメリット、デメリットを十分検証し議論できればよいと思う。

(会長) 日本の義務教育は、世界一。そういう前提の中で、少人数だから駄目ということではなく、メリット、デメリット、特色をきちんと理解した上で進めていくことが大事だと思う。

(事務局) 適正規模とは何が適正なのか、という議論が必要だと思う。授業効果、教職員の数、部活動、通学環境など複数の視点から適正規模を議論していただきたいと考えている。また議論するうえで、教育環境、子どもたちの学習環境、中学校が町づくりとしてどうか、財政的な面からなど、さまざまな視点で地域に説明会をしながら進めていきたいと考えている。また、既に統合した高根東小学校の通学に係る経費は、予算規模で比較したところ、ほぼ同じくらい。

(会長) もう一つ、日本の教育の大きな問題、いじめ問題、不登校、DVなど社会問題化したものもある。小学校と中学校の接続が悪く、ギャップが大きすぎる。学習面や発達段階などいろいろなことが複合的に重なり合って、繋ぎ目に多くの問題を抱えている状態。小学校、中学校の義務教育9年間でどのように教育設計するかの視点が大事。北杜市では、義務教育9年間における教育の内容をどのように設計するのか考慮し、適正配置を考えると良い方法が出てくると考える。

(2) 審議スケジュールについて

(事務局) 資料に沿って説明。

(会長) 目標を令和3年度の年度末において、審議会のほかに地域説明会、議会、そしてワークショップがとても重要になるかと思う。

(委員) 県内の統合学校の視察、及び地域説明会への審議会の委員の関わりや参加することは可能か。

(事務局) 視察は、審議会委員と一緒に統合した学校に行き、子どもたちの意見も聞きたいと考えている。また、地域説明会は、8町村別に説明会を開催し、審議会委員と情報共有しながらやっていきたい。

(委員) 希望があれば参加も可能か。

(事務局) 可能。審議会委員は、積極的に参加していただき、意見を生で感じていただきたいと思う。

(委員) 今後、審議会や地域の意見を聞く中で、適正規模が1校なら1校、現状のままなら現状のままということではよいか。

(事務局) 今回の適正規模審議会は、ゼロベース、白紙の状態で議論していただきたいと考えている。何が適正規模なのか、適正規模のために取り得る方向性、現状のままでいいのかなどを踏まえて議論していただきたい。そのためには、地域説明会の前に資料をご提示して、この審議会でも審議していただきたい。

(会長) 極端なことを言うと北杜市の中に大きな中学校を一つ作ることもある。大学のアンブレラ方式というのがある。北杜市の中学校という傘を掲げて、その後は分校という位置づけになるかも知れない。

(委員) 極端な話、北杜市にある中学校を全部甲陵中にして、勉強したい人は甲陵中へ、スポーツがしたい人はこちらの学校へということか。

(会長) そういうことも有りうるということ。前回の審議会でも、小学校は一部統合が進められ、中学校は統合した学校がない。統合ができない最大の理由は、地域住民の理解が得られなかったということではよいか。

(事務局) 総論的には賛成だったと思う。ただ、4校の組み合わせや、地域での中学校のあり方という面から合意が得られなかったと理解している。そのような中で、今年度のスケジュールですが、市民に基本的なことを理解いただき、ワークショップを開き、意見を出していただいて市民が納得するものを作り上げていきたいと考えている。

(委員) 中学校にもいろいろな課題があるが、まとめながら意見等も提案したい。

(会長) 先生は、児童生徒数に対応して教えることができるが、適正規模がある。要は、そこで学ぶ子どもたちが未来輝く人に育ってもらいたいという願いが基本であるが、統合の話になると落としどころがなかなか見えない。審議会では妥協ではなく、子どもたちが将来、国内外で活躍できる人材に育つためにどうすればよいか考えていくべきと思う。

(委員) 県知事が25人学級を実施しようとしているが、それが反映される

のか。

- (事務局) 25人学級を具体化するために、県教育委員会は検討を進めている。審議会においても、県の動きを加味した中で進めていかなければならないと考えている。
- (会長) 県のスピードは速くないので、視野には入れるが、歩調を合わせては入れられない。北杜市の事情を優先するということか。
- (委員) 統廃合の問題を含んだ、小中学校のあり方を、先進的な学校をどのように評価するのかというようなレポートがあると、委員内でも考えやすいので、可能な限りでよいので調査していただきたい。
- (事務局) 事務局だけでは全国ベースの状況調査は不可能なので、基本的な情報収集は、一部コンサルの力を借りて進めていきたい。
- (会長) 山梨県の私立学校は、少子化の中で教育の質を上げるために必死になっている。小学校から私立に入れるという傾向もある。北杜市として、誇れる質の高い義務教育を行うという共通の目標を持って、行政もそのような目標を持てば、北杜市に移り住む人も増え、人口も増えると期待している。いい教育をすれば、より上級の学校に進むというプラスの循環になる。
- (委員) 地域説明会の資料は。
- (事務局) 適正規模に関する内容を含め分かりやすい資料を作り、地域説明会に臨みたいと思う。
- (委員) 児童生徒の減少、前回の統合にならなかった結果、本日の審議会の内容などを報告するのか。
- (事務局) できるだけ反映をしながら市民の方々が判断しやすい資料にする。
- (委員) 審議会当日に資料を配布されて審議するのは、読み込めず具体的な意見が出せない。新しい学校の情報や新しい事例の資料などもご教授願いたい。
- (事務局) 地域説明会の資料内容は、北杜市の経緯の説明、国、県の動向、先行事例などを分かりやすく凝縮した資料としたい。また、次回の審議会には、事前に資料をお渡ししたい。
- (委員) 今の子どもたちは、不登校や保健室登校が多い。
- (委員) 親も子どもも多様化し、フリースクールに通学するなど、人数でまとめるのは難しい。
- (会長) 視察で、子どもの生の声を聞くのは、ヒントが得られると思う。
- (委員) 25人学級がいいと思ったが、一人一人の特性に対応できる体制作りも統合する際に考えて欲しい。
- (委員) 前回の統合案に関する説明会で、武川地区と白州地区の中学校在無

くなる計画に驚いた。住人としては、学校がなくなると文化さえ無くなってしまおうと思う。それは絶対避けるべきだと思う。学校の規模の適正化は人数ではなく文化を構築できる、維持できるのが適正だと思う。そういう考えを自己主張していきたい。

(会 長) 共通の認識で審議会を進めていきたいと思う。

会議終了 午後5時10分